

とにかくやってみなければ分からない
トライ&エラーで、ダメならやめる



PROFILE
篠塚恭一 (SPI社長)
(しのづか きょういち)

1961年生まれ。フリーのツアー添乗員(近畿日本ツーリスト専属)を経て、91年添乗員の人材育成・派遣を行う株式会社エス・ピー・アイ(SPI)を設立。96年、旅行業者としての認可を受け、高齢者・障害者専門のツアーを企画・催行している。

旅行ツアーの添乗員を派遣していたSPIが、高齢者・障害者向けの専門旅行を始めたのは6年前。それまでだれも見向きもしなかった高齢者の介護旅行という視点は先見性が高く、「介護」に注目が集まる世の中のトレンドの変化も追い風となり、順調にビジネスを拡大してきた。普通の添乗員だけでなく、持病や障害を持つ人には介護ヘルパーを同行させるなど、手厚いサービスが特徴だ。昨年には介護ビジネスを全国的に展開するコムスンと提携。国内旅行の場合には旅先の人材を活用することで価格を下げるという画期的な手法も取り入れた。

しかし、9月に米国で起きた同時多発テロの影響は旅行業界を直撃。SPIのような小規模事業者は、大きく売り上げを減少させた。

「この半年間は、本当にいろいろなことがありました。コムスンとの協働も始まり、ようやく軌道に乗ったところにテロ。また「介護旅行」の裏方の仕事は重労働で、本当に大変です。単に「旅が好き」

「介護に興味がある」だけでは完全には実現できないため、スタッフのモチベーション維持にも苦労しました」

結果として、事業規模は昨年夏から比べて半分以下に縮小した。SPIは、まだ日本に1社しかない介護旅行会社として、認知度が高まってきている。篠塚氏は、この事業をなんとかメジャーにしたいという熱い思いを実現させるために、量的な「やめる」を選んだのだ。

▶▶▶ 発想を転換し、自らの強みを生かす

「どうしてこんなにうまくいかないのだろう、と毎日落ち込んでいますよ」

しかし篠塚さんは、次のようにも語る。「結局、日々の仕事はトライ&エラーの繰り返し。仕事は格好いいだけのものじゃない。どんなに格好悪くても、やってみなければ分からない。それでダメなら、やり方が違うんだとあきらめる。100やったら99はやめていますよ。でもそうやって物の考え方を変えながら、正解を見つけていくんだと思います」

そこに、日常的な「やめる」「次を始める」の繰り返しがある。

篠塚さんが、そもそも介護の分野に興味を持ったのはなぜか。20年前、近畿日本ツーリストの専属添乗員をやっていたころは、「とにかくお客さんを喜ばせて、またツアーに参加してもらえるような旅行にしたい」と言われていた。つまりリピーター作りだ。しかしリピーターになったお客さんも10年、20年たてば年をとる。例えば60歳の旅と70歳の旅は違う。肉体的に弱くなり、食は細くなり、歩く速度も遅くなる。さらに80になると、今度はもう行けるツアーが存在しない。この人たちが楽しめる旅行を作りたい、と思ったのだ。

「市場環境が大きく変わる中で、われわれのような弱小企業が、あらゆるリスクを回避することは難しい。ならば、できるだけ競争のないマーケットを狙おうと考えました」。従前の業務であった人材派遣は今も続けている。しかし発想の転換が、新しい道を開いたのだ。

ケーススタディ 達人たちの仕事術 | やめる

www.businessstandard.jp

脱力主義 できごと!

ガンバラないプラス効果

達人たちの仕事術 5つの道 ・やめる ・捨てる ・負ける
・やらない ・いいかげん

■物語がつくる爆発ヒット

モー娘。的商品学

■デフレ終焉!?

今だから家を買う!



バンダイ・タカラ・トミー・レゴ

おとなの

オモチャ

ターゲットチェンジで大ブレイク!



連載COMIC 第2回 東京ブルー
TOKYO BLUE
わたせせいぞう

定価 500円
毎月2日発売